とかち新聞
主筆　松山明
(発行所)北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話2551番
毎旬5の日発行　1カ月200円　1カ年前納2,000円

デマと中傷？足寄町長選

町村合併後の第一回の足寄町長選は当時の川上真通町長と土田今吉助役との意見の相異からの一騎討ちであつたし、第二回の川上町長と当時の高橋安蔵議長との一戦は、不明朗な吊橋工事や中間駅問題に関する川上町政批判のなかでの対立であつたし、前回の高橋町長と当時の小林弘道文教委員長との対戦は、高橋氏の私有地と公用廃止地との公私混同による町行政のゆきずまりがもたらした結果であつて、それぞれ選挙になる必然性があつて相当以前からその動きが表面化しているのが常でした。

ところがこのたびの小林町長と岡靖前教育長とのたたかいは、岡氏の言によれば『西小学校の神社高台への移転新築に小林町長には熱意がないので、これを実現するために町長選に鳴海一郎、遠山謙、新沼芳雄氏らのなかから立起するように話し合つたが、私に押しつけられた』のだそうで、当然に岡氏らが強力にすすめてきた西小問題が町長選の最大争点になるものとみられていましたが、その後神社高台への移築は不可能という客観状勢からか、前号で岡氏の発言を全文報道したとおりに、三十五年間つとめた恩返しに出馬という消極的な立場を表明するのにとどまつていて、これといつた争点のない選挙になりそうですが、そのかわりに岡靖後援会と表裏一体の明日の足寄町を創る会からさまざまな行政批判の文書が全町に配られ、岡氏から小林氏の姿勢批判もあつたので、こんどはこれらに対して小林氏の意見をきいてみました。

小林弘道氏にきく

小坂山の黒い霧とは－

－町有財産の売り喰いとか、黒い霧に包まれる小坂山として、二億一千万円の共立グループに売らず二億円で野上電鉄に売却して別に金が流れているとかいつているが

小坂山周辺約一千㌶の町有地は草地にもならず植林にも適しない遊休財産だつたところ、一昨年に前寺忠三郎氏のあつせんで野上電鉄不動産が観光レクリエーション基地として開発のために売払いの申請があり、町議会の産業委員会でも六カ月にわたつて調査した結果未利用地の活用と地域発展のために処分することになつたが、共立借振釧路支店からも申請があつて競願となつたので、同年八月二十四日期限で両社から希望価格や開発計画などを提出させたところ、野上は二億円で計画が具体的だつたのに対して、共立は二十八日に一億六千九百五十万円で、土地分譲が主だつたので、野上に処分することが議会に提案し決されたので、共立が二億一千万円で高く買うなどとは全くのデタラメであり、その後実測の結果、面積は九百四十㌶に確定したので一億八千八百万円の売却代は道銀、信金、農協、開協にわけて預金しており、その預金利子だけでも年に一千万円以上になつている、さらに町では手に負えない不毛の土地を買つて開発してもらうのだが、ことしから固定資産税をかけることになるし、こんご開発がすすみ施設がふえるにしたがつて町税が増収となり、将来は常時一万人の観光客を蓄留させるという計画なので、地域住民のためにも町の発展に役立つものと考えている、野上電鉄不動産はその後ハイランド株式会社に社名が変更となつて着工したが、農振地域の解除に手間どつたこと、道の環境保全条例の施行によつて事務手続きが複雑になつたこと、余暇開発センターの指導によつて計画が大がかりになつたことなどで、当初の予定よりおくれているが通産省が全国五カ所の大規模行楽地として足寄を指定したのは、週休二日制から年休集約レジャーの普及にともなつて一職場、一企業から何百名でも何千名でもの一行を受け入れて、一週間でも十日間でもレジャーを楽しませる、思い切つて大がかりな観光レクリエーション基地を設けなければ国民的要望に応えられないとして、余暇開発センターによつて調査立案されたもので、さる二月二十四日に来町して説明のあつた四百十億円におよぶ本町での観光開発構想が二冊に印刷されて同センターから全都道府県、市町村に紹介されることになつたが、「緑の高原都市建設に向つて着々とことがすすめられてている」ときに、いかに選挙戦術とはいえ根も葉もないデマをふりまくことは許されないし一般住民の方々はこうした悪質な文書にまどわされないようにお願いしたい

中央墓地は借地でない

－足寄太の墓地は本別町からの借地で、来年は返還の期限なので先祖の墓を掘りおこして移転するのに莫大な経費をかけさせる町民無視の暴政だと書いているが

役場へ聞きにもこないでよくも勝手な想像でそうしたデマを飛ばすことに驚いている、この墓地一町二反五畝二歩のうち四反三畝十三歩はもともと町有地で、あとの八反一畝十九歩もすでに三十七年八月十三日に本別町からのご好意で寄付をして頂いているので、全部足寄町有地であり、来年移転もなにもないのに暴政呼ばわりのつくりごとで町民をダマそうというのか、その意図がわからない、このようにハツキリしたウソを公表したのだから「明日の足寄町を創る会」としては良心のある人々がいるとすればウソであつたことを改めて公表する責任があると思う、それをしないのではこんごこの会のお知らせはいつさい信用されないことになるし、以前に「とかち新聞」が指摘したように〃デマを創る会〃といわれても仕方がない、町財政は十六億円の赤字だといつたり、こんどは町立病院の内科医師がいなくなるとか－町行政をこうしていくという前向きな建設的な意見を打ち出すのではなく、なにか悪材料はないかとアラ探しにつとめているようだが、なにもない、十六億円というと町村段階ではなく府県段階の金額で気が遠くなるようなはなしで、町財政が赤字ではないことは毎年度ご存じで、交際費まで全部監査をうけているので、デタラメなことはいわないでほしい、むしろ町の財政力は十勝管内では上位にあるというのは三つの発電所に二つのダムによる大口固定資産税と実質的に二つの営林署があるための木材引取税などは他の町村にはみられない強味となつている、内科医師がいなくなることはあり得ないことでかりに交替の場合は空白にならないように私が常に大学の教授と直接に話し合いをしており、病院長が十年以上も長期にわたつているのは公立病院では全道で足寄だけだとうらやまれている

プロ町長ではいけない

－岡氏は小林町長は行政マンとしてプロ精神に欠けている、八方ウロウロ行政だといつているが

町長はサラリーマンではないし行政マンではない、それは戦争前の道庁長官から任命された官選町村長時代の感覚であつて、民主憲法のもとでの地方自治法による民選町長はクロウトでないズブのシロウトでもだれでも住民のなかから選ばれるのだから、あくまでも住民とともに歩み住民に密着して住民の側に立つて行動すべきで、プロ町長、職業町長、官僚町長であつてはいけない、町長には行政テクニックはいらない、行政事務は助役以下の職員がより精通してそれぞれが専心する行政機構を、これを町長は住民の身になつてリードしていく、住民の正しい要求を道や国へ突きあげていく、大所高所から将来展望に立つて町のビジョンをつくりこれを実現していくべきですでに後半に入つている町の総合十カ年計画の仕上げの時期で、ウロウロどころか基本路線がハツキリしており、その肉づけとしての山村振興計画は第二期に入つており、この一月に議決を頂いたばかりの後期の過疎地域振興計画も立案にあたつた私としてこれらはすでに道と協議してつくりあげたもので実行していく責任もある

－ニクソン式側近行政とか、選挙にさいして社会党や地区労からの推薦をうけることは、一部勢力のヒモつきとなつて片よつた町政となり、自民党政権のもとで町としてマイナスではないかと心配する向もあるが

その意味がわからない、ニクソンは盗聴事件までおこして大統領の地位を追われたが、足寄でなにがあるというのか、過去において町長派、反町長派の対立があつて側近グループ云々の不明朗なウワサがあつたので私は第一回の選挙いらいその弊害は町長選挙のシコリから起因するので、私を支持しようがしまいがそれにこだわらないでやつてきたので、むしろ支持した方々から水臭いといわれているほどで、特定の側近などはないし、議会のみなさんはすべて是々非々の立場で臨んでおられると思う、社会党や地区労の推薦はいまにはじまつたわけではなく八年前からそうで、本別の水元町長さんもそうで、十勝管内の町村長にはそうした方が多いし、それによつてなにもマイナスはない、その町村の何千名もの勤労者の理解と協力を得られないようでは町村長はつとまらない、私も勤労者の一人としてその仲間だと思つている、社会党や地区労ばかりでなく公明党の推薦をうけており、自民党の多くの方々の支持を頂いているのはこれまで私が片よつた行政をしなかつたためではないだろうか、どの党派から推薦されようが行政は全町民のためにおこなわれるし、国や道もなんの差別もないし、自民党の政権であるからには自民党の先生方には随分お世話になつている、しかしそうだからといつて国や道のいいなりになるのではなく、この十勝の厳しい農業の実態から農民を守るために立ちあがるべきだし、自治体の財政を苦しめる超過負担の解消を訴え、労働者の生活に不安をあたえる合理化には反対すべきで、なんとしても町民の生活と経営を守るのが町長の役割で、企業誘致もさることながら現にある地場産業を大切にして、より住みよい町にしていきたい

あの町この街

この農民

★加工原料乳の保証価格を百二円九十三銭に引上げは酪農民の最低の要求だつたが、結果は八十円二十九銭に押えられてガッカリ。

★相手は農林省であり審議会であるとしても、政党政治のもとでは引上げの決定権をもつているのは自民党政調会の農林部会。

★その農林部長は十勝出身の自民党代議士で、酪農家の実状を一番知つており自民党が多数であり、野党はみな引上げに賛成しており、その気になれば百円の大台に乗せられた筈。

★ハチまき姿で各町村での危機突破大会から十勝大会、全道大会から全国大会へとくりひろげた百二円の要求がカケヒキではなく真の要求であつたとすれば、農民もまた反自民の立場になるのは当然。

★ところが選挙ともなれば農民は依然として自民党支持の習慣から抜け切れないとすれば、自分で自分の首を締めていることに気づかないのか、あるいはまだまだ苦しみが足りないのかそのどちらかであること。

明るいスナック
シャンブル
足寄町南一区　T 二〇三三

不動産についての御相談は
調査　売買・あつせん　管理・分譲
代行　登記　損害保険　代理まで
興和、興和火災保険代理店
北海道免許十26
足寄不動産事務所
足寄町本通り三丁目　T 二三四五

一五〇キロ高速ホイルバランサー
レッカー車　フレーム修正機　新鋭機
RM　アクリル　調色機　導入！
札幌陸運局認証　整備　板金　塗装
ムトウ自動車工業
足寄町　T 二五七八　夜間専用 三七一九

家具　建材　アルミサッシ
既製家具から注文建具
住宅産業に奉仕する！
有限会社　桜井家具建具店
足寄町北五区　T 二三六二　工場西五区

技術に生きる！
ビクター
テレビ
ラジオ
レコード
ステレオ
－あらゆる電気器具－
有限会社
ミネ・デンキ
足寄町三笠通り　T 2642

春物衣料が沢山入りました
新入学を控えてお子様のお服からお母さまのお服まで新型がいつぱいです。
夢と希望を乗せての前田呉服店からのお知らせイ…とにかくご来店下さい　今すぐに！
なお足中女子制服別注も大至急ご用命下さい　京呉服展示会も盛況の裡に終りましたが陳上展示物は続けていますのでご用命下さい。
株式会社　前田呉服店
足寄町駅前商店街　T 二〇二三